

学生部門 佳作

古澤 太晟

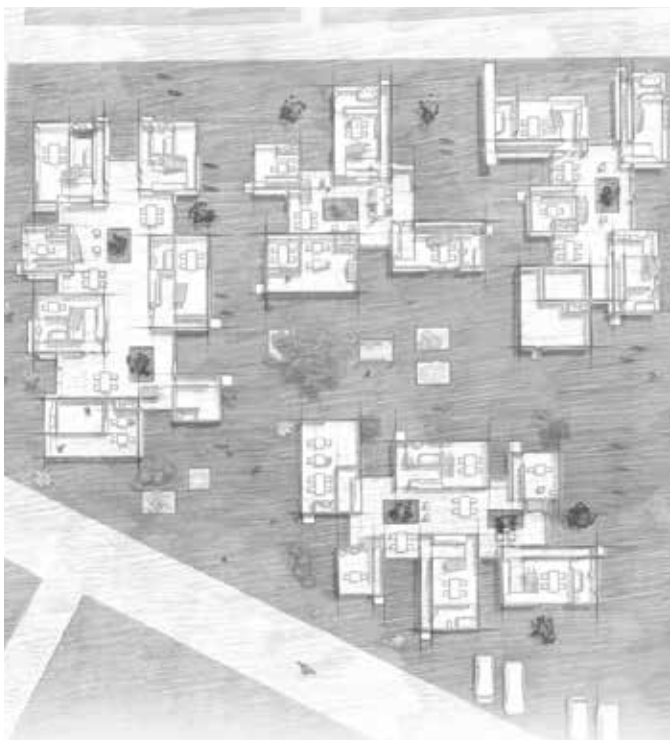
島根大学

【作品名】
INNOVATIONAL
VILLAGE



外観

平面図



village エントランス



軒下の庇空間



鳥瞰図



白湯天満宮の参道から



居室



中央の広場

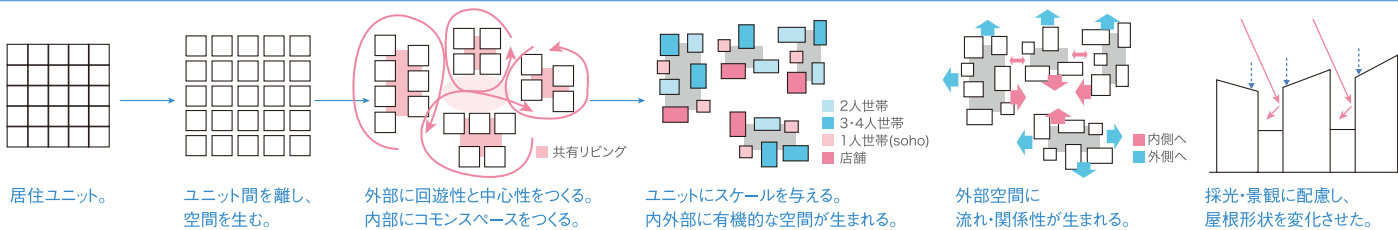


共有リビング



窓からの風景

ダイアグラム+ゾーニング



設計コンセプト

現代の住宅において、血縁以外のコミュニティに帰属している例は稀有である。ただ「住む」という行為のためだけに建築が存在し、コミュニティが希薄化しているのだ。本設計では多世代、多様な家族がコミュニティレベルで交わり合って住むことのできるモデルを提案した。さらに、住宅以外の機能も兼ね備えることにより、サステナブルな内容となっている。住民同士、地域の人同士など、複雑な関係性が構築された暁には、このまちにイノベーションが起こるだろう。敷地は松江市天神町。隣接する白湯天満宮は昔より人々に慣れ親しまれている神社である。敷地を一体として考え、参道の先を「むら」の中心広場にすることで、まちのコミュニティベースのコアができる。

関係性としては、多世代、多様な家族が同じ屋根の下で暮らす。ほかの家族の気配を感じながらの生活は様々なつながりを生み、設計者の想像を超えた住民主体のアクティビティが行われる。職住近接を設定し、まちの機能を「むら」に集約する。コンパクトに設計された循環型の集合住宅はまちの人たちにとっても魅力的な場所となり、さびれつつあるまちの活性化につながる。多世代の様々な人が集い、絡み合うこの住居では、古めかしいものと同時に新しい「何か」で常にあふれている。それらは人々の好奇心をくすぐり、楽しみに満ちた生活をおくることができる。無限の可能性を秘めた子ども、これから新しいチャレンジを試みる大人にとってイノベーションを起こしやすい環境である。

審査委員講評

松江市天神町にある神社、白湯天満宮の参道を中心にした街づくりの提案です。リアルな空間を想定してのアイデアは、実際そこに暮らす人々にとっては「突っ込み処」満載のプランになります。住民曰く「そんなのありえないよ」みたいな。学生といえども、絵空事でないテーマを選んだことに拍手を送ります。将来、建築家として生きていこうとするならば、生身の現実と常に向き合うことになるのですから。